

# 学習を生かした活力あるコミュニティ作り

## 千葉市若松公民館(千葉県)

### 公民館の沿革・年表

- 1983年(昭和58)6月1日 開設
- 2018年(平成30)4月1日 指定管理者制度導入  
(指定管理者 公益財団法人 千葉市教育振興財団)
- 2020年(令和2) さわかちば県民プラザ主催「第1回ちば講座アワード」千葉県公民館連絡協議会長賞受賞
- 2022年(令和4) 「第3回ちば講座アワード」優良賞/公衆無線「CHIBA CITY Wi-Fi」全室利用可/千葉県社会教育功労者賞
- 2023年(令和5) 「第4回ちば講座アワード」入選

### 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

【上段】坂月川愛好会(市民団体)との連携事業【年4回】(2019~2023実施)夏休みの後半に行った研究発表の様子。コロナ禍においては、公民館と参加者の自宅をつなぎ、zoomを使用したオンライン発表会を開催した。【下段】子どもお菓子作りリーダー養成講座【全6回】(2019年4月~9月実施)2020年(令和2)「ちば講座アワード」千葉県公民館連絡協議会長賞受賞。学習の成果を「カフェ」という形で披露した。講師を囲む子どもたちの生き生きとした表情から、館との関係性が読み取れる。



坂月川親子生き物教室(オンライン発表会)



子どもお菓子作りリーダー養成講座(若松カフェ)

公民館情報		1. 公民館対象人口	26824人	3. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
		2. 建物設置年月日	昭和58年(1983)6月1日	4. 来館者のインターネット接続最大端末数	15人は実績有
5. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (公益財団法人千葉市教育振興財団) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
6. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 700人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 7948人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 合計 8,648人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ( )				
7. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 5人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 ( 職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 1人 ) 合計 8人				
8. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 指定管理料 )				
9. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )				
10. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 ( <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 図書室 ) <input type="checkbox"/> 自由記述 ( )				
12. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( ちば産学官連携プラットフォーム、市環境保全課、市スマートシティ推進課、地域包括支援センター、市科学館、市郷土博物館、市男女共同参画センター、東京ガス、コープみらい、ソフトバンク、坂月川愛好会(市民団体) )				

### 千葉市若松公民館

OPEN 9:00~21:00 H P <https://chiba-kominkan.jp/wakaba/wakamatsu>  
 TEL 043-231-7991 SNS -



SNS等のQRコード(なければ削除)

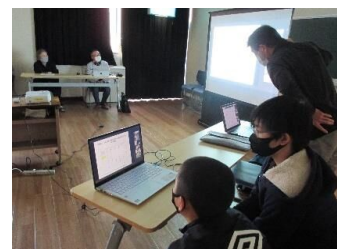


## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

昭和58年（1983）の開館直後に発足し、活発に活動していた女性会員を中心とするサークルが、高齢化を理由に解散しており、地域における学びの場の減少、地域のつながりの希薄化が危惧される。市内には、設備の整った複合施設等も新設され、生産年齢層は老朽化した公民館に価値を見出すこともなく、利用者も少ない。市民にとって一番身近な公共施設である公民館が、魅力ある街づくりのために、異世代交流や次世代への継承に関わる事業に取り組む必要があると考えた。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【上段】坂月川の美化活動や保全活動を行う坂月川愛好会を講師に迎えて開催している「坂月川親子生き物教室」は例年、定員を上回る応募がある。新型コロナウイルス感染拡大に伴う自粛期間中にビオトープを散歩コースとして訪れる市民が多く、環境教育に関心が高まっていたのであろう。公民館で坂月川やビオトープの生き物について学んだあと、テーマを設定し実施した現地観察会に参加し、調査結果や感想の発表会を行った。館は「生きがい作り」の視点で坂月川愛好会の活動を支援するとともに、講座に参加した親子が将来的に館や坂月川愛好会の運営に関わるような人材に成長することを目指し、毎回プログラムの見直しを行っている。【下段】子どもお菓子作りリーダー養成講座は、子どもの笑顔が地域の力になることを証明してくれた。一方、サークルの解散が続き、地域の学びの場の減少・つながりの希薄化を危惧し、近年は「サークルの創設を目指した連続講座」を開催している。2022年は「ハーブ教室」（2022年4月～9月、全6回）を企画した。園芸サークルの解散により、花壇の維持に悩んでいたところ、趣味でハーブを育てている住民と利用者を介して知り合う機会があった。館が目指す地域の人材の発掘にあたりと考え、すぐに連絡先をうかがい、協力を求めた。手入れの行き届いた花壇は、人々の目にとまりやすく、公民館や地域のさらなる活性化にもつながる。ハーブの活用は若い世代も関心があり、多くの人の興味をひくテーマであると考えた。



館と自宅をつないだオンライン発表会



サークルの創設を目指したハーブ教室

## 3. 取組による成果や効果

講座の実施報告や、サークル活動の様子などを掲載した館報『若松公民館だより』を近隣4校の小中学校の全児童生徒（約2,200人）に配布したり、自治会の協力を得て各戸に回覧したりして、広報活動を活発化した。また、ホームページでは、バグナンバーも閲覧できるようにした。→【成果】公民館の認知度が上がった。公民館を利用したことのない住民から、講座の企画が持ち込まれるようになった。（「日本アームレスリング連盟会長が教えるパワートレーニング」2021年3月12・19日、「サイクリング入門」2022年4月16日）また、解散したサークルの会員から、新たな活動の場を求める声が館職員に寄せられた。館職員が講師を探し、新しく「パッチワークシルトサークル」や「合唱サークル」（予定）が誕生した。



合唱サークル発起人による打ち合わせ

## 4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

運営懇談会を年2回実施し、委員9人（地域団体代表、学校関係者、館利用者）から助言を受けている。講座については2回（2か年）開催することを基本とし、参加者アンケート等を参考に講師と一緒に内容の改善を図っている。また、市の公民館では、集中的に利用者アンケートを取る期間を設け、結果を運営の改善に生かしている。当館においては評価の高かった館内の美化活動を利用者と一緒に継続するとともに、中高生対象の講座の開発、人気講座の募集方法の見直し等に取り組んだ。

## 5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

「一番身近な公共施設」として、親しみやすい雰囲気作りと、丁寧な対応を心がけている。一方、これまで公民館を利用してこなかった層に対しては、オンライン講座を導入することで、外出しづらい市民とつながる可能性を広げ、講座の申込みをホームページから24時間対応可能にすることで参加しやすい環境作りに努めたい。



館に完成したハーブ畑

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

高齢者にとっては「生きがい作り」になる講座を企画し、主体的な学びにつなげる支援を行うと同時に、子どもを介した若い世代の取り込みを強化する。住民が公民館に関わることにより、地域のリーダーとなるような働きかけ、仕掛けを継続して行ってきたい。



子どもが主宰したカフェ